

桜

生 工

日本大学生産工学部校友会誌

2008

Vol.38

CONTENTS

特集「これからの生産工学部」—— 2

生産工学部長石井進先生を囲んで

ごあいさつ

生産工学部工学部長 石井 進 —— 5

生産工学部校友会長 高野和雄 —— 6

母校を訪ねる会 —— 6

桜泉祭 —— 7

第20年度代議員総会 —— 8

第20年度生産工学部校友会執行部一覧 —— 9

OB紹介

鉄建建設(株) 宇都宮 守 —— 10

大成ロテック(株) 野村健一郎 —— 11

ボランティア委員会活動報告 —— 12

学科ニュース —— 13

入学試験 —— 16



石井進 生産工学部長(右)、高野和雄 校友会長(左)

石井進先生は、3月に行われた生産工学部学部長選挙において教職員有権者の大多数の支持と得票を得られ7月より生産工学部長として2期目を迎えられました。そして、今年度より生産工学部校友会長に高野和雄氏(昭和40年建築工学科卒業)が就任されました。

早速、越川茂雄校友会広報委員長と川岸梅和校友会広報副委員長が赴き、石井進学部長(校友会名誉会長)と高野和雄校友会長にインタビューさせていただきました。(平成20年9月25日、生産工学部長室にて)

越川・川岸: 本日はお忙しい所、お時間をいただき有難うございました。この度は、2期目の学部長と新校友会長の御就任、心より御慶び申し上げます。

石井・高野: 有難うございます。

越川・川岸: 本日は「これからの生産工学部」をテーマにお話をいただきたく存じます。

石井: 昭和47年に生産工学部校友会が認められ、歴代会長として三好氏、星氏、賀島氏、鬼丸氏と続き、この度、高野さんが第5代会長に就任されました。おめでとうございます。

歴代会長には生産工学部の管理・運営に対し御高配をいただき深く感謝申し上げますと共に、高野新会長には歴代会長と同様、生産工学部のことを宜しく御願い申し上げます。

高野: 少子化の中、学部を取り巻く環境の厳しさを感じます。校友会としてできる限りの努力を致したいと強く思っております。

越川・川岸: 校友会と学部との連携と支援については、数年前に立ち上げたボランティア委員会が、必修科目である生産実習(インターンシップ)に200社以上の企業の御紹介をいただいております。

高野: 引き続き、更なる企業の御紹介を募り、学部と一体となって充実した状況づくりを行いたいと考えております。

越川・川岸: 校友会からの支援はいくつか挙げることはできますが。

石井: 今、お話しに出た生産実習(インターンシップ)への支援以外に、経済的困窮者で優秀な学生への奨学金として1億2千万円の基金があります。そして留学生に対する支援や地震等災害による罹災学生への支援、最近では風力発電のコンベに対する支援など種々の学生支援が行われております。今後は環境問題や地域を視野に入れた新たな校友会の支援や援助が考えられると思います。

越川・川岸: 「大学の生き残りをかけた魅力ある大学づくり」の中で、新設学科の認可が文部科学省より下りましたが。

石井: 御蔭様で認可をいただき平成21年4月より、環境安全工学科と創生デザイン学科が誕生致します。生き残りをかけて理工系3学部各々の特徴を出そうとしておりますが、生産工学部では、時代の先取りをした内容を持ち、時代の求める人材の育成を行うことを主眼にし、生産工学部の魅力をより一層増大

させたいと考えております。

高野：新しい2つの学科のパンフレットを見させてもらいましたが、新学科が既設7学科を横断的に把ね、学際領域に位置することは、受験生にとっても魅力的であり、社会が望み、強く求める内容を持つものと大いに期待しております。

越川・川岸：新設2学科の定員は各々120名ですが。

石井：数理情報工学科以外の6学科の定員は減りますが、新設2学科240名を加え、生産工学部全体の定員は今までと変えておりません。

高野：そうしますと、各学科より優秀な学生を生み出すことにつながりますね。

越川・川岸：新設2学科の誕生に伴い、教育・研究環境の整備についてどのように考えていらっしゃいますか。

石井：教育・研究環境整備は、大谷前学部長の時代からの大きなプロジェクトです。引き続いて、13号館北側の敷地にもものづくりを行う「デザイン工房」を建設する予定です。鳥人間の機体をはじめ、ロボットなど実物のものづくりが十分できる環境を整えたいと思っています。

越川・川岸：以前から先生がおっしゃっていた「ものづくりを通じて人間教育を」の受け皿が整うわけですね。

石井：その通りです。ものづくりを通じての人間教育と技術者教育は生産工学部の大きな特徴と考えています。ものづくりを行う場づくりや空間づくりは重要なことと考えております。

高野：そのような工房に卒業生達もコラボレーションできるプロジェクトがあれば、経験や技術を学生達に伝えることもできますね。

石井：そうですね。デザイン工房の2階にはカフェやレストランも併設しようと思っています。

越川・川岸：よりコミュニケーションと魅力が増しますね。

石井：その通りです。「社会や学生が大学に求めているものは何か」「大学が社会や学生に何ができるか」を常に考えています。特に地域社会への貢献が重要と思っています。

越川・川岸：地域社会への貢献として昨年より実践された環境大学の開校がありますね。

石井：昨年の8月には「南房総市民環境大学」を開校し、10月には市原市において「市民環境大学いちばら」を開校しました。今年は2つの市民環境大学に加え、9月より習志野市に他大学との協同で2008 習志野市市民環境大学3大学連携講座を開校致しました。

高野：卒業した校友も各地域で開校された市民環境大学へ参加されれば、大学との絆がより深まりますね。

越川・川岸：卒業した校友とえば、日本大学全体の卒業生が99万3千人、日本大学創立120周年も間近にせまってきました。

石井：来年3月の卒業生で合計100万人を超



石井 進 生産工学部長

高野 和雄 校友会長

えます。そして創立 120 周年記念事業の一つとして、校友会館の設計が始まったようです。

高野：待望の校友会館です。大学との絆、校友同士との絆や母校愛をより深めるための会館です。敷地は市ヶ谷の日本大学本部の近くだと聞いております。この機会に、より一層校友会正会員の増加を望んでいます。

越川・川岸：正会員になりますといくつかのメリットがありますね。

石井：校友子女入学試験制度があります。大学入学資格があって、本学への入学を第一希望とする人で、かつ生産工学部が定めるいずれかの資格に該当する校友の子女で 2 親等内直系血族であればこの試験を受けることができます。

高野：この試験の選抜方法はどのような内容ですか。

越川・川岸：書類審査、小論文、適性検査です。

石井：校友子女入学試験のことは余り知られていないかも知れません。校友会の正会員になっていただければ入試等のお知らせが事務局より送られてまいります。

高野：校友子女だけに与えられる特典ですね。全国的にこの入試の知名度が低く残念です。

これを機に是非共校友の皆様には正会員の手続きをとっていただき、今まで以上に絆を深めたいと思います。

石井：校友子女入学試験に関しては、より受験しやすい状況づくりを行っていく考えです。

越川・川岸：「大学の生き残りをかけた魅力ある大学づくり」について OB の目から見て会長、いかがでしょうか。

石井：校友会からもアドバイスをいただければ幸いです。

高野：「新設の 2 学科が平成 21 年 4 月に開設されること」や「学生一人ひとりと向き合う教育環境の実現」「環境と地域を重視した取り組み」等、多くのことを学部長のリーダーシップのもと実践されていることに感銘を受けております。このような事を含め、より一層社会にアピールし広報する必要があるように思います。

石井：世のため、人のため、より一層学生、校友、地域社会のために頑張りましょう。

越川・川岸：広報に関しては学部だけでなく、是非共校友会のバックアップ体制を整えていただきたくお願い申し上げます。今日はお忙しい中、貴重なお話を有難うございました。



左から、川岸梅和 校友会広報副委員長、越川茂雄 校友会広報委員長、石井進 生産工学部長、高野和雄 校友会会長

校友子女入学試験

■出願資格：次の①、②および③の要件を満たす者。

①大学入学資格を有し、本学への入学を第一希望とする者で、次の（ア）～（オ）のいずれかに該当する校友の子女（2 親等内直系血族：受験者本人の祖父母、父母、兄弟、姉妹）である者。

（ア）下に示す、学校法人日本大学が設置する学校に在学する「学校法人日本大学が設置する学校」を卒業または修了した者。

学校法人日本大学が設置する学校：●日本法政学校 ●高等工学校及び工業専門学校 ●東京歯科大学及び歯科医学校 ●東京歯科大学 ●専門学校名による専門学校、専門学校、高等師範部、高等専攻科及び短期大学 ●東京高等医学校及び東京歯科大学専門学校 ●専門学校名による大学 ●大学令による大学及び学科、大学院及び専攻 ●学校教育法（新学制）による大学、大学院及び短期大学

（イ）日本大学寄附行為施行規則第 9 条に定める推薦校友。

（ウ）学校法人日本大学が設置する学校に勤務を有する専任教職員または専任教職員であった者。

（エ）学校法人日本大学の役員または役員であった者。

（オ）学校法人日本大学の特別付属・準付属校を設置する法人に勤務を有する専任教職員または専任教職員であった者。ただし、特別付属・準付属校を設置する法人は、平成 20 年 4 月 1 日現在のものとする。

②生産工学部への入学を第一希望とする者。

③合格した場合、本学部に入学することを誓約できる者。



日本大学生産工学部長
生産工学部校友会名誉会長

石井 進

校友の皆様におかれましては、益々御健勝のことと御慶び申し上げると共に、学部の運営に対し、日頃より多大な御理解と御支援をいただき深く感謝申し上げます。

去る3月27日に行われた生産工学部学部長選挙において、教職員有権者の大多数の支持と得票（有効票224票の内216票）を得て再選し、7月13日より生産工学部学部長として2期目を迎えたことを、先ず校友の皆様へ御報告申し上げます。

少子化を迎えた今日、大学全入時代の到来を始め、私立大学を取り巻く環境は極めて厳しく、大学・学部の生き残りをかけた競争が激化しています。言うまでもなく、大学が生き残るためには、「教育力」「研究力」「就職力」「経営（革新）力」「財務力」の5つの力が必要です。学部長に在任致しました3年間に、

私はこの5つの力について、できる限りの鋭意と努力を尽くし、管理運営を行い、相乗効果を紡ぎ出し、「学生を大切にする大学づくり」「明るい大学づくり」「開かれた大学づくり」そして「魅力ある大学づくり」を行ってまいりました。引き続き、学生一人ひとりと向き合い、対話を基本にしたきめ細かな教育環境を実現すると共に、大学全体を視座に置いた種々の改革を教職員一体となって適切に行っていく所存です。

更に、「少子・高齢社会と向き合い」「IT（情報技術）社会と向き合い」「地域社会と向き合い」「環境（地球温暖化等）問題と向き合い」「学生一人ひとりと向き合う」等、本学部の教育や研究と密接に結びつく5つのキャッチフレーズを「目標」として掲げ、『大学の生き残りをかけた魅力ある大学づくり』『社会に求められる真の技術者の育成』『環境と地域を重視した取り組み』について実践してまいります。

このような中で、特筆すべきことは、かねてより準備しておりました既設7学科を横断的に抱えた学際領域の新設学科（環境安全工学科、創生デザイン学科）の認可が文部科学省より7月末日に下り、平成21年4月より発足することとなります。

大学・学部の改革や活性化を一層進めるためにも今後共、校友会・卒業生の皆様の倍旧の御理解と御協力を賜りたく宜しく御願い申し上げます。

平成21年4月開設

環境安全工学科（定員：120名）

◆教育理念・目標

「環境」と「安全」を理解するための深い洞察力と工学全域に共通する横断的領域に関する柔軟な知識を有し、インターナショナルに活動する技術者の育成を目指します。
製造したものの安全性確保と事故防止の知識、有害排出物抑制の方法、地球環境保全に関する知識を学びます。そして先進技術にもとづいた持続可能なものづくりを続けるための学際的な知識と技術を身につけた人材を育成します。

◆キーワード

環境、安全、エネルギー、生命、資源循環、地球環境、安心・安全の社会

創生デザイン学科（定員：120名）

◆教育理念・目標

既設7学科を横断し、「デザイン」と「コンセプト」を共通とする学際的分野をつなぐことを教育理念としています。
工学と芸術の融合によるやわらかい工学によって「ものづくり・場づくり」を基礎としたクリエイティブ・クラスのデザイナー、コンセプトの育成を教育目標としています。

◆キーワード

アートとテクノロジーの融合、夢を形にするデザイン力、ユニバーサルデザイン、エコロジカルデザイン、サステナブルデザイン、パッケージデザイン、セーフティデザイン、バーチャルデザイン、循環システム、環境共生システム、省エネ、戦略的創発システムデザイン

詳細は、学部案内、入試ガイド、新設2学科のパンフレットをご覧ください。



生産工学部 校友会長
高野 和雄

校友の皆様におかれましては、益々御健勝で御清栄の趣き、心より御慶び申し上げます。

去る4月に行われました新役員推薦委員会において、次期生産工学部校友会会長として推薦され、常任幹事会、幹事会、代議員総会で御承認を受け、鬼丸三也会長の後継として生産工学部校友会会長に就任致しましたことを御報告申し上げます。

歴代会長の日本大学校友会と生産工学部校友会に対する情熱と熱意には、常日頃より頭の下がる想いでおります。

歴代会長が御尽力いただいた種々の活動の中で、特に日本大学校友会は2003年に新しい校友会制度をスタートさせ、準会員（在学学生）・正会員（卒業生）制度が2006年度に完成年度を迎え、日本大学の全学部が同じ制度、同じルールで、田中英寿会長の下に更なる充実した活動が行われております。

また、生産工学部校友会は、この3月に教職員有権者の絶大なる支持を得られ再選された石井進学部長の御指導を仰ぎながら、車の両輪（石井先生は「学部と校友会は車の両輪である」と常に言われています。）の片輪をしっかりと担うためにも、母校のため、在学生のための物心両面の支援と協力をできる限り実践したいと考えております。

また、「魅力ある大学づくり」の中で、既設7学科を横断的に把持した学際領域の「環境安全工学科」と「創生デザイン学科」の誕生（平成21年4月開設）と「学生一人ひとりと向き合う教育と生活支援」の実践は校友として大変嬉しく、母校に強く誇りを感じるニュースとして大きな感銘を受けております。

卒業して40数年、微力ながら校友会活動を行ってまいりましたが、今後は会長としてできる限り尽力する所存でございます。校友の皆様におかれましては、倍旧の御指導、御鞭撻の程、心より御願ひ申し上げます。

母校を訪ねる会

生産工学部では毎年、桜祭（旧泉祭）の時期（今年度は11月1～11月3日）に「母校を訪ねる会」を開催し、皆様をご招待申し上げております。

今年度は卒業50年（昭和33年卒業）、卒業40年（昭和43年卒業）、30年（昭和53年卒業）、20年（昭和63年卒業）及び10年（平成10年卒業）を経た皆様を対象に、下記のように第20回「母校を訪ねる会」を催したく存じます。

なにかとご多事ご多端の折とは存じますが、是非御家族共々ご来場願ひ、在学当時の先生方を交えた教職員との懇談やお互いの旧交を温めるとともに、後輩の主催する桜祭を見学され、ご指導くだされば有り難く存じます。

尚、ご招待申し上げる卒業生以外の皆様でもご都合がよろしければ、お互いお誘い合わせの上、お気軽にご来校くださることを心よりお待ちしております。

○日時 平成20年11月3日（月曜日）

受付：14時00分～15時50分

1号館1階正面入口

懇親会：16時00分～17時30分

1号館3階大会議室

学内見学：随時一桜祭、研究室等を見学、訪問してください。

○場所 日本大学生産工学部津田沼校舎

○会費 無料



ごあいさつされる石井進生産工学部長（平成19年度）



平成19年度 母校を訪ねる会・懇親会会場

第17回

桜泉祭

開催日時
11月1～3日
朝9時より



平成20年度 桜泉祭実行委員会 委員長
機械工学科3年 大島 悠

同窓生の皆様には、日頃各所で御活躍の事と御慶び申し上げます。

さて、今年度桜泉祭は17回目を迎えることになりました。昨年度の桜泉祭も多くの方々からの御協力・御支援をいただき、約1万4千人もの来場者を迎え、盛大のうちに終えることができました。

桜泉祭は、年月を重ねる毎にその姿を変えています。私自身も実行委員として約2年間という短い期間ではありますが、その変化をこの身で体感し、運営する為の苦労や学部祭に求められているものについて日々考えてまいりました。

そして、今年度は桜泉祭のテーマとして「Voltage」を掲げることで生産工学部生各々の内に秘めた力を発揮出来るよう、学生間との連携をより一層深め、運営の円滑化を目指してまいりました。また、構内のゴミ箱の設置をはじめとするゴミの分別化の促進、土に還えすことのできる容器の使用など、工夫することで環境問題にも配慮した運営に努めました。その他にも、日頃お世話になっている商店街の皆様への感謝を込めて、商店街でのイベントなどにも参加させていただき、より良い関係を築いています。

また、企画の面では学部生の参加促進を目標として今まで無かった斬新なイベントや、学術的なイベント、文化祭としての文化を象徴するようなイベントを立案しています。

来る20周年も見えてまいりました。本学の多大な同窓生と在学生の意識を一つにし、一層の発展と強化された運営を委員一同、全力で目指していく所存であります。

この桜生工を御覧の同窓生の皆様には今後も桜泉祭に足を運んでいただき、末永い御協力・御支援のほど、宜しくお願い致します。



↑ 自慢の大型アーチ門でお客様を迎えます



↑ 近隣の幼稚園生の作品を展示したり、お子様が遊べる場所を用意しています



↑ 人気の芸能人企画では、大勢の観客の方々に埋め尽くされます



↑ サークルが出店しているメインストリートでも、大勢のお客様で賑わいます

桜泉祭実行委員会のホームページでは今年のイベントのスケジュールや模擬店の各メニュー等様々な情報を公開中です。最新の情報も随時更新していきますので、ご覧下さい。
桜泉祭実行委員会公式ホームページ <http://ousensai.com/>

桜泉祭実行
委員会作成

1780-1782 1782-1783 1783-1784 1784-1785 1785-1786 1786-1787 1787-1788 1788-1789 1789-1790 1790-1791 1791-1792 1792-1793 1793-1794 1794-1795 1795-1796 1796-1797 1797-1798 1798-1799 1799-1800 1800-1801 1801-1802 1802-1803 1803-1804 1804-1805 1805-1806 1806-1807 1807-1808 1808-1809 1809-1810 1810-1811 1811-1812 1812-1813 1813-1814 1814-1815 1815-1816 1816-1817 1817-1818 1818-1819 1819-1820 1820-1821 1821-1822 1822-1823 1823-1824 1824-1825 1825-1826 1826-1827 1827-1828 1828-1829 1829-1830 1830-1831 1831-1832 1832-1833 1833-1834 1834-1835 1835-1836 1836-1837 1837-1838 1838-1839 1839-1840 1840-1841 1841-1842 1842-1843 1843-1844 1844-1845 1845-1846 1846-1847 1847-1848 1848-1849 1849-1850 1850-1851 1851-1852 1852-1853 1853-1854 1854-1855 1855-1856 1856-1857 1857-1858 1858-1859 1859-1860 1860-1861 1861-1862 1862-1863 1863-1864 1864-1865 1865-1866 1866-1867 1867-1868 1868-1869 1869-1870 1870-1871 1871-1872 1872-1873 1873-1874 1874-1875 1875-1876 1876-1877 1877-1878 1878-1879 1879-1880 1880-1881 1881-1882 1882-1883 1883-1884 1884-1885 1885-1886 1886-1887 1887-1888 1888-1889 1889-1890 1890-1891 1891-1892 1892-1893 1893-1894 1894-1895 1895-1896 1896-1897 1897-1898 1898-1899 1899-1900 1900-1901 1901-1902 1902-1903 1903-1904 1904-1905 1905-1906 1906-1907 1907-1908 1908-1909 1909-1910 1910-1911 1911-1912 1912-1913 1913-1914 1914-1915 1915-1916 1916-1917 1917-1918 1918-1919 1919-1920 1920-1921 1921-1922 1922-1923 1923-1924 1924-1925 1925-1926 1926-1927 1927-1928 1928-1929 1929-1930 1930-1931 1931-1932 1932-1933 1933-1934 1934-1935 1935-1936 1936-1937 1937-1938 1938-1939 1939-1940 1940-1941 1941-1942 1942-1943 1943-1944 1944-1945 1945-1946 1946-1947 1947-1948 1948-1949 1949-1950 1950-1951 1951-1952 1952-1953 1953-1954 1954-1955 1955-1956 1956-1957 1957-1958 1958-1959 1959-1960 1960-1961 1961-1962 1962-1963 1963-1964 1964-1965 1965-1966 1966-1967 1967-1968 1968-1969 1969-1970 1970-1971 1971-1972 1972-1973 1973-1974 1974-1975 1975-1976 1976-1977 1977-1978 1978-1979 1979-1980 1980-1981 1981-1982 1982-1983 1983-1984 1984-1985 1985-1986 1986-1987 1987-1988 1988-1989 1989-1990 1990-1991 1991-1992 1992-1993 1993-1994 1994-1995 1995-1996 1996-1997 1997-1998 1998-1999 1999-2000 2000-2001 2001-2002 2002-2003 2003-2004 2004-2005 2005-2006 2006-2007 2007-2008 2008-2009 2009-2010 2010-2011 2011-2012 2012-2013 2013-2014 2014-2015 2015-2016 2016-2017 2017-2018 2018-2019 2019-2020 2020-2021 2021-2022 2022-2023 2023-2024 2024-2025 2025-2026 2026-2027 2027-2028 2028-2029 2029-2030 2030-2031 2031-2032 2032-2033 2033-2034 2034-2035 2035-2036 2036-2037 2037-2038 2038-2039 2039-2040 2040-2041 2041-2042 2042-2043 2043-2044 2044-2045 2045-2046 2046-2047 2047-2048 2048-2049 2049-2050 2050-2051 2051-2052 2052-2053 2053-2054 2054-2055 2055-2056 2056-2057 2057-2058 2058-2059 2059-2060 2060-2061 2061-2062 2062-2063 2063-2064 2064-2065 2065-2066 2066-2067 2067-2068 2068-2069 2069-2070 2070-2071 2071-2072 2072-2073 2073-2074 2074-2075 2075-2076 2076-2077 2077-2078 2078-2079 2079-2080 2080-2081 2081-2082 2082-2083 2083-2084 2084-2085 2085-2086 2086-2087 2087-2088 2088-2089 2089-2090 2090-2091 2091-2092 2092-2093 2093-2094 2094-2095 2095-2096 2096-2097 2097-2098 2098-2099 2099-2100 2100-2101 2101-2102 2102-2103 2103-2104 2104-2105 2105-2106 2106-2107 2107-2108 2108-2109 2109-2110 2110-2111 2111-2112 2112-2113 2113-2114 2114-2115 2115-2116 2116-2117 2117-2118 2118-2119 2119-2120 2120-2121 2121-2122 2122-2123 2123-2124 2124-2125 2125-2126 2126-2127 2127-2128 2128-2129 2129-2130 2130-2131 2131-2132 2132-2133 2133-2134 2134-2135 2135-2136 2136-2137 2137-2138 2138-2139 2139-2140 2140-2141 2141-2142 2142-2143 2143-2144 2144-2145 2145-2146 2146-2147 2147-2148 2148-2149 2149-2150 2150-2151 2151-2152 2152-2153 2153-2154 2154-2155 2155-2156 2156-2157 2157-2158 2158-2159 2159-2160 2160-2161 2161-2162 2162-2163 2163-2164 2164-2165 2165-2166 2166-2167 2167-2168 2168-2169 2169-2170 2170-2171 2171-2172 2172-2173 2173-2174 2174-2175 2175-2176 2176-2177 2177-2178 2178-2179 2179-2180 2180-2181 2181-2182 2182-2183 2183-2184 2184-2185 2185-2186 2186-2187 2187-2188 2188-2189 2189-2190 2190

1000

本年度は役員改選が行われ次ページの
ように決定しました。

収支報告 平成19年度

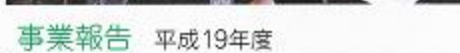
収入の部		平成19年度	平成19年度	増減	増減率
勘定科目					

經營收支計畫

年4月1日 至平成20

[illegible]

本日の心得

[illegible]

会員の発行/平成20年3月31日現在/正会

● 事實關係

年月日	
-----	--

●全體關係

12. 5. 5	監査委員
12. 6. 8	衛生委員

● 外 関 係

10. 4. 30	11. 7
4. 21	7. 30

[illegible]

土木工学科 昭和43年卒業



鉄建建設株式会社
代表取締役副社長(就任)
宇都宮 守

プロフィール

昭和43年3月 日本大学理工学部経営工学科
土木専攻卒業
(現 生産工学部)

昭和44年4月 鉄建建設株式会社 入社

平成13年4月 同社 北関東支店長

平成16年4月 同社 執行役員東京支店長

平成19年6月 同社 取締役専務執行役員
東京鉄道支店長

平成20年6月 同社 代表取締役執行役員副社長
東京鉄道支店長

現在、当社はJR東日本・鹿島建設との3社連携等の社外ネットワークを強化し首都圏をはじめとする三大都市圏及び鉄道を中心とした交通インフラ工事への徹底した「選択と集中」を進めるなかで、昨年、4月に発足した最重要取引先である東日本旅客鉄道様を中心とした鉄道関連工事に特化した東京鉄道支店の支店長として社員一同と

ともに、鉄道・交通に携わる企業として安全の確保を最優先に日夜、業務に邁進しております。

また、当社は鉄道工事安全システムの構築の一環として昨年11月にこれまで成田にあった技術センターに電気・信号・通信を備えた複線軌道を設置し鉄道設備・鉄道工事・軌道の基礎から応用までを学ぶことができる施設として建設技術総合センターを開設するとともに、1年365日24時間体制の情報センターを組織し現場の安全を見守っており、現場情報の発信基地としての役割を担っております。



新年賀詞交歓会



建設技術総合センター開設に於て

工業化学科 昭和49年卒業



大成ロテック株式会社
技術研究所長
野村 健一郎

プロフィール

大成ロテック(株)・生産技術本部
技術部長 兼 技術研究所長

職歴

1974年4月大成道路(株)
〔現 大成ロテック(株)〕入社
現在に至る

【その他】

2003年4月～
長岡技術科学大学 環境 建設系・講師

資格

工学博士
土木学会フェロー 特別上級技術者
〔メンテナンス〕
技術士(建設部門)

委員

土木学会 舗装工学委員会 委員
土木学会 建設技術研究委員会 委員
日本道路協会 舗装委員会 委員
日本道路建設業協会 技術委員会 委員
日本アスファルト合材協会
技術委員会 委員

これをご覧になって、「卒業学科が工業化学科となっているが、プロフィールから判断すると土木工学科卒業の間違いでは？」と思われるかもしれません。

私が勤務する大成ロテック(株)は、道路構築をはじめとする社会資本整備などに係わる企業で、材料開発等のために化学出身も採用します。入社後、材料開発に関連して設計や施工にも興味を持ち、土木に関連する学位や資格にチャレンジ、さらには関連する委員会等に参加させていただいている次第です。

「僅か2年間の専門課程で、生涯の専門を決定することはない。」が実感です。ただし、専門課程の2年間、学んだことが役に立ったり、もっと勉強しておけばよかったと思ったり。専門課程が、「たった2年、されど2年」と感じることも事実です。

在学生の皆様が、将来、「学生時代にもっと勉強しておけばよかった。」と思わないで済むことを祈念しております。



生産実習

○ 活動報告（ボランティア委員長 島袋 洋）

私は昭和47年に土木工学科を卒業して縁があって平成7年より校友会活動に参加させていただいておりますが、3年前より鬼丸前校友会会長の肝入りでボランティア委員会が発足し、その委員長に任命されております。この会の主な目的は生産工学部創設時からの大きな特色である「生産実習」をサポートするためと、合せて就職支援を大きな柱としております。

すでに2年前より校友会誌「桜生工」の卒業生への送付に添えて皆様へ協力をお願いしてまいりました。生産実習に関しましては平成18年度は70社110名、19年度は120社160名と予測以上の成果をあげております。御協力頂きました皆様方には心より厚く御礼申し上げます。今後は多くの方の御意見等を取り入れながら進めてまいりたいと思っております。

○ 生産実習生の受入れのお願い

私ごとですが、日本大学を卒業してゼネコンに入社し、いきなり工事現場でのスタートとなり、関東、北陸、東北、東京と23年間の現場生活、その後13年間今日に至るまで営業部門にたずさわってこれましたのも、どこに行っても官民とわず、数多くの日本大学の卒業生がいて、それぞれ皆様の活躍されている姿をみて大変たのもしく思え、大いに励まされたものでありました。日本大学を卒業したことは最高の財産の1つかと思っております。

これから学生諸氏にも「ものづくり」の楽しさを知ってもらい大きなチャレンジ精神をもってもらうためにも「生産実習」の受け入れ企業が1社でも増えるよう、卒業生の皆様をお願いする所です。最後に、母校の益々の発展と同窓の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。



生産実習の様子

工科系4学部校友会

日本大学工科系校友会支部長会が8月30日(土)生産工学部で行われました。懇親会では、石井 進生産工学部長、出村克宣工学部長、三田光顯生産工学部事務局長、佐々木一巳理工学部事務局長、小林喜代司薬学部事務局長をお迎えし和やかな祝宴となりました。

また前日、親睦ゴルフ大会(各個人払い)が開催され個人団体ともに生産工学部校友会が優勝いたしました。来年は薬学部校友会が当番校になります。



第11回 日本大学工科系校友会支部長会



鷹乃台カントリー倶楽部

建築工学科

【学生数】学部1,078名 大学院(修士)66名 (博士)10名

【人事】新任：泉 幸南 研究所教授 小倉大助(平成20年3月生産工学部建築工学科) 助手 佐々木 隆(平成19年3月生産工学部建築工学科専攻博士前期修了) 助手

退官：堀島晴男教授 退職：落部美樹副手 虹川矩史副手

【トピックス】○学位取得者：田中 遼(芸術工学)(神戸芸術工科大学)より授与(平成20年3月)「公共空間への芸術的要素の設置手法に関する研究」

○宮崎隆昌教授 Pacific Congress on Marine Science and Technology 2008(6月1日～6日)において、「PACON SERVICE AWARD」を受賞した。

○大内宏友教授 2007年度海外派遣研究員として平成20年3月21日～8月22日までイギリス(グラスゴー)に出張した。

○広田研究室の大学院生2年・松本 豊君と岡・関川智子君は、2008年度支部共済事業日本建築学会設計競技「記憶の器」において、作品テーマ「地球の記憶 人間の記憶」で入賞15点の一点に選ばれた。応募総数は71点であった。(写真1)

○坪井研究室の大学院生2年・大塚隆光君と広田研究室の同1年・加藤尚裕君は第5回三井住友空間デザインコンペで「親と子の新しい住まい」において、作品テーマ「カベの下、大きなヘヤ」で選外佳作に選ばれた。応募総数は788点で、一次審査通過作品8点、選外佳作4点が受賞した。(写真2)

○広田研究室の大学院生2年・松本 豊君と岡・関川智子君は、2008年度支部共済事業日本建築学会設計競技「記憶の器」において、作品テーマ「地球の記憶 人間の記憶」で入賞15点の一点に選ばれた。応募総数は58点であった。(写真1・2)

○坪井研究室の大学院生2年・大塚隆光君と広田研究室の同1年・加藤尚裕君は、第5回三井住友空間デザインコンペ「親と子の新しい住まい」において、作品テーマ「カベの下、大きなヘヤ」で選外佳作に選ばれた。応募総数は788点で、一次審査通過作品8点、選外佳作4点が受賞した。

○川岸梅和教授を代表とする川岸研究室チーム(北野幸樹助手、博士後期課程3年 杉本弘文、高松建設(株) 小谷隆紀(平成20年3月 博士前期課程修了))は、第10回 2007年 まちの活性化・都市デザイン競技(課題地：春日部市 [主催：まちづくり月間実行委員会、(財)都市づくりパブリックデザインセンター、後援：国土交通省・埼玉県・春日部市])において、まちづくり月間実行委員会会長賞(第2位)を受賞した。(平成20年7月)



(写真1)



(写真2)

応用分子化学科

【学生数】学部838名 大学院(修士)58名 大学院(博士)2名

【人事】平成20年度の学科主任は清水正一、専攻主任は山田康治が任命されました。平成20年3月に杉山邦夫教授(有機光化学)と平田光男教授(高分子材料化学)が定年退職されました。なお、平田教授には現在も研究所教授として、引き続き講義を担当して頂いております。

新任：中釜達朗准教授(分析化学)、野呂知加子准教授(生命科学)、山根庸平助手(固体物性化学)の3名が4月に着任されました。山根助手の所属は山田康治研究室です。

昇格：辻 智也准教授(化学工学)と山田典准教授(機能性高分子)が教授に、白川誠司助手(有機合成化学)が助教にそれぞれ昇格されました。したがって、平成20年度の教員構成は、教授9名、准教授6名、専任講師3名、助教1名、助手5名で、研究室数は15となっています。

なお、最新の学科情報はホームページ(<http://www.ic.nihon-u.ac.jp/index.html>)をご覧ください。

【トピックス】○学位取得者：根本浩史(おもと ひろし)博士(工学) 日本大学大学院生産工学部応用分子化学専攻(平成20年3月25日)「RNAウイルス感染症の高感度迅速診断を目的とした微粒子免疫凝集法に関する研究」

岡田昌樹(おかだ まさき)博士(工学) 千葉工業大学大学院工学部応用分子化学専攻(平成20年3月22日)「放電を利用したプラズマ反応に対する音波の照射効果に関する研究」

○平成19年10月18、23、25、30日に小野薬品工業(株)、北川工業(株)、大正製薬(株)、大日本印刷(株)、凸版印刷(株)、横浜ゴム(株)のご協力のもと第2回業界説明会を開催いたしました。前年度以上の学生の参加があり、また、プレゼンターの熱心で分かり易い説明により、大変盛況な会となりました。本年度は、10月16、21、23、28日に予定されています。

○JABEE中間審査を受審し、国際化学技術者コースの教育プログラムが平成22年3月まで継続認定されました。中間審査は平成19年10月14、15日に行われ、前回の審査から実質的な改善が確認され、認定が継続となりました。

○学科オリエンテーションとして、平成20年4月13日・14日の1泊2日の日程で房総富海・鴨川へ出かけ、新入生同志や教員との親睦を深めて参りました。

○千葉県総合教育センター主催の研修講座(講座番 3352)を平成20年8月20日に応用分子化学科で実施しました。当学科の教員による講義や実験を通じて、千葉県内の公立中学・高等学校で理科を担当されている先生の研修に協力させていただきました。

○平成20年4月13日平井長一郎先生(元日本大学副総長・元生産工学部長)がご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。



JABEE修了証授与式(平成20年7月12日)



業界説明会

マネジメント工学科

【学生数】学部911名 大学院（修士）26名（博士）2名

【人事】本年4月1日より2名の先生を新たにお迎えしました。矢野耕也（准教授）先生と酒井哲也（助教）先生です。

矢野先生は本学理工学部を卒業後、16年間製薬会社の研究所に勤務され、専門は「品質工学」です。酒井先生は大学院管理工学専攻を修了後、東工大の博士課程を経て助教として勤務され、専門は「信頼性工学」です。

【トピックス】○学部変革（新学科創設）に伴い、平成21年度に従来の3コース（ビジネスマネジメント、テクノロジーマネジメント、知財経営）を2コース（ビジネスコースとテクノロジーコース）に編成変えすると同時に、時代に即応したカリキュラムの改編を行います。更にビジネスコースには「企業経営系」と「知財経営系」、テクノロジーには「生産システム系」と「情報システム系」の2つの履修モデルを設け、明確な専門的人材の育成を目指します。また、学生定員は160名に減員され、より少人数教育の徹底化が期待されます

数理工学科

【学生数】学部529名 大学院（修士）41名（博士）1名

【人事】新任：山内ゆかり助教授 関亜紀子助手 古市昌一教授

【トピックス】○数理工学科は本年度、3名の教員が新規採用されました。そして、平成21年度より定員が110名から140名に増員される予定です。新しく「メディアデザインコース」が誕生し、従来からの「情報工学コース」と「情報数理工学コース」を合わせて3コース構成となります。○また、本年度は日本技術者教育認定機構（JABEE）の中間審査を受けるため、カリキュラムや設備等の見直しが行われました。学科パソコン室は101室に移動し機器やソフトのリプレイスが行われ、旧パソコン室は演習室として改装されました。学生さん達がより良い環境の中で勉強できるように心がけています。



2F改装



新パソコン教室

教養・基礎科学系（旧一般教育教室）

【人事】教養・基礎科学系では平成20年3月に三輪信吾教授、中島豊比古教授、新田正義教授、百木恒郎准教授、三野正洋准教授の5人の先生方が定年退職されました。長年にわたる学生への教育ならびに学部の運営のためにご尽力されました。心より感謝いたします。そして、平成20年4月には山形（西谷）治江教授（総合文化）、高澤弘明助教（総合文化）、横田賢司助教（言語文化）、岩崎雅子助教（健康科学）、藤田育嗣助教（数学）、堀見昌司助教（物理）、山崎昌志助教（物理）、宮崎 淳助教（化学）の8名の新しい教員を迎えることができました。皆さん、若手ですので、新入生を預かる教養・基礎科学系としては心強い限りです。高村 隆教授は広報担当に就任され、学部の広報関係のすべてを担ってられます。また、昨年度まで教養・基礎科学系の主任をされており田口政義教授が学務副担当に、兼房慎二教授が学生生活副担当に就任され、それぞれ教育や学生生活の中心的役割を担っております。

【トピックス】○山川一三男准教授が今年度から施行された日本大学生産工学部教育貢献賞を受賞され、7月16日に受賞講演が行われました。○学生に目を向けますと、今年度の入学生からノート型PCの携行化が行われ、コンピュータを利用した授業の充実と学内無線LAN環境整備が推進されています。また、一年生はネイティブによるオールイングリッシュが必修科目になっており、七夕の季節には学生とネイティブの先生と一緒に英語で短冊を作ったりと楽しんでいます。

○7月11日には津田沼校舎で英語カラオケ大会があり、大いに盛り上がりしました。このように、一年生に最初に接する機会が多い教養・基礎科学系では、石井学部長のスローガンであります「面倒臭い大学」、「学生の目線にたった教育」を実践しております。そして、平成21年度開設が決まった「創生デザイン学科」、「環境安全工学科」を迎えるに当たり、準備に大忙しです。



カラオケ大会

● 校友子女入学試験

■ 試験日程

校友子女 確認書締切日	10月27日(月)
出願期間	11月5日(水)～11月10日(月)
試験日	11月15日(土)
合格発表	11月21日(金)
試験場	本校(津田沼校舎)

■ 募集人員

機械工学科	2	電気電子工学科	2
土木工学科	2	建築工学科	2
応用分子化学科	2	マネジメント工学科	2
数理工学工学科	1	環境安全工学科	1
創生デザイン学科	1		

■ 選抜方法

- 書類審査(出願資格確認書/出身学校調査書)
 - 小論文(600字以内で記述)【試験時間45分/配点100点】
 - 適性検査【配点200点】
 - 面接試験【配点100点】
- ※高等学校長の推薦書は必要ありません。
※合格基準に達しない場合には、合格者が募集人員に達しないこともあります。

● 公募制推薦入学試験

■ 試験日程

出願期間	12月3日(水)～12月8日(月)
試験日	12月13日(土)
合格発表	12月19日(金)
試験場	本校(津田沼校舎)

■ 募集人員

機械工学科	6	電気電子工学科	5
土木工学科	6	建築工学科	6
応用分子化学科	5	マネジメント工学科	5
数理工学工学科	5	環境安全工学科	4
創生デザイン学科	4		

■ 選考方法

- 適性検査【配点200点】
- 書類審査(調査書・高等学校長推薦書)【配点100点】
- 面接試験【配点100点】

■ 推薦基準

- 本学部の志望学科での学業を強く希望し、合格した場合、本部に入学することを確約できる者(平成20年3月卒業生も可)で、高等学校長が推薦する者

● 平成20年度入試予定

行 事	予 定 日
A O 入 学 試 験	9月13日(土)・9月20日(土)
編入学試験(2年次・3年次)	10月11日(土)
指定校制推薦入学試験	11月15日(土)
外国人留学生入学試験	11月15日(土)
帰国生入学試験	11月15日(土)
体育推薦入学試験	11月15日(土)
校友子女入学試験	11月15日(土)

行 事	予 定 日
付属高等学校等入学試験(付属推薦B方式)	11月22日(土)
公 募 制 推 薦 入 学 試 験	12月13日(土)
付属高等学校等入学試験(付属推薦A方式)	12月20日(土)
大学入試センター試験(C方式)	1月17日(土)・18日(日)
入 学 試 験	
A 1 方式	2月1日(日)
A 2 方式	2月9日(月)
A 3 方式	2月19日(木)

入試センター TEL 047(474)2246

日本大学生産工学部校友会誌「桜生」

発 行：日本大学生産工学部校友会

住 所：千葉県習志野市泉町1-2-1

TEL：047-476-1140

FAX：047-476-3510

HOMEPAGE：http://www.asahi-net.or.jp/~wa3k-kkt/index.html

E-MAIL：wa3k-kkt@asahi-net.or.jp

印 刷：株式会社 東 工

住 所：東京都台東区元浅草4-6-3

TEL：03-5830-2888

FAX：03-5830-2900

編 集：日本大学生産工学部

校友会広報委員会